



小暮 博志 議員(政友みらい)
 質問方式 一問一答
**地震に対する
 対応について**

Q 市政に関するアンケート調査によると佐野市の家具の転倒防止対策状況は22.9%である。家具の転倒防止をすることは、地震災害を減らすための大きな手段と考えるが、市の見解は。

A 行政経営部長

大地震の時のケガの原因は30〜50%が家具類の転倒や落下によるものです。転倒防止の対策を講ずることは地震からの被害を最小限に抑えることができ、個人が手軽にできる最も身近で有効な手段であると考えています。

市民に対しては、平常時から災害の備えとして家具の固定や配置を見直し、家具の転倒や照明等が落下しないよう対策をして、安全な空間を確保することを周知しています。

今後様々な機会を通し、家具の転倒防止の必要性や重要性について積極的に啓発を行っていききたいと考えています。

その他の質問

☆市有施設等のあり方に関する基本方針について



鈴木 靖宏 議員(大樹会)
 質問方式 一問一答
**新都市地区周辺の
 交通渋滞緩和と
 地域防災について**

Q 県道佐野古河線(東産業道路)の複線化が計画にあるようだが、現状は佐野古河線が工業団地西交差点(浅沼町)で2車線が1車線になり、交通事故や交通渋滞発生の原因となっている。また、変則6差路でもあり危険な交差点である。これは道路構造上に問題があると感じる。いかがか。

A 都市建設部長

県道佐野古河線は道路管理者である安足土木事務所が28年2月に道路改良事業に係る地元説明会を開催し、現在測量を実施しています。当該路線は危険度が高い道路と県も認識しています。

今後の県道整備について、市も道路管理者や交通管理者と一体となって課題を改めて整理したうえで、今後の佐野古河線の整備にきちんと反映されるよう努力していきたいと思っています。

その他の質問

☆電子黒板有効活用とデジタル教科書導入について



▲ 工業団地西交差点(浅沼町)



田所 良夫 議員(新風)
 質問方式 一問一答
地方創生について

Q 出流原PA周辺総合物流開発と、その関連性及び首都圏広域地方計画と第2次総合計画基本構想・基本計画との整合性について、当局はどのように考えているか伺いたい。

A 市長

首都圏広域地方計画は、首都圏の将来を決する運命の10年とも言えるような極めて重要な方向性を示した計画です。本市の将来像や基本計画を策定するうえで、首都圏に位置する地理的優位性や、高速交通都市としてのポテンシャルの高さ、首都圏で期待される役割やそのことが市民生活にもたらすであろう効果などが十分検討し、国の計画にも合致したまちづくりの基本である総合計画を皆様とともに作り上げていきたいと思っています。

その他の質問

☆スポーツ立市について

